

消化器外科 *Gastroenterological Surgery*

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

- 椿 雅光(副院長、医療情報部長、電子カルテ運用管理室長、働き方改革推進室長、患者支援室長)

1988年愛媛大学医学部卒

専門分野:医療情報

資格:日本外科学会認定医・認定登録医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、四病院団体協議会・医療研修推進財団診療情報管理士、日本医師会認定産業医、厚生労働省臨床研修指導医

- 大谷 広美(消化器病センター長、手術センター長、手術部長、改善推進室長補佐、クオリティマネジメント室長)

1989年愛媛大学医学部卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医・ロボット支援膵体尾部切除プロクター(daVinci)、日本肝胆膵外科学会/日本内視鏡外科学会認定ロボット支援膵頭十二指腸切除プロクター(daVinci)、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)肝臓、日本膵臓学会指導医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 發知 将規(臨床研修センター長)

1997年徳島大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)直腸・結腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内A級)、日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会ストーマ認定士、Intuitive Surgical Mentor for da Vinci Robotic-Assisted Surgery、厚生労働省臨床研修指導医

- 八木 草彦(主任部長、救命救急センター副センター長、消化器病センター副センター長、災害医療部長)

1992年愛媛大学医学部卒

専門分野:上部消化管外科、胃癌、食道癌、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)胃、日本食道学会食道科認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 吉山 広嗣(部長、がん治療センター副センター長、外来化学療法室長)

1990年愛媛大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 渡邊 常太(部長)

1994年愛媛大学医学部卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科、肝移植

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医・ロボット支援膵体尾部切除プロクター(daVinci)、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)肝臓、日本胆道学会指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本移植学会移植認定医、日本外科感染症学会外科周術期感染管理認定医・外科周術期感染管理教育医、日本膵臓学会指導医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、ICD制度協議会インフェクションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

- 古手川 洋志(部長、診療情報病歴室長)

1994年愛媛大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸、厚生労働省臨床研修指導医

- 佐藤 公一(部長)

1998年愛媛大学医学部卒

専門分野:上部消化管外科、胃癌、食道癌、内視鏡外科

資格:日本外科学会認定医・外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)胃・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)胃、日本消化管学会胃腸科専門医・胃腸科指導医、日本食道学会食道科認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 花岡 潤(部長)

2003年大阪医科大学卒

専門分野:肝胆膵外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医・ロボット支援膵体尾部切除プロクター(daVinci)、日本肝胆膵外科学会/日本内視鏡外科学会認定ロボット支援膵頭十二指腸切除プロクター(daVinci)、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)肝臓・ロボット支援膵頭十二指腸切除プロクター(daVinci)、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 松野 裕介(部長)

2003年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 大島 将義(部長、電子カルテ運用管理室副室長)

2009年愛媛大学医学部卒

専門分野:下部消化管外科、内視鏡外科

資格:日本外科学会外科専門医・指導医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)胃・ロボット支援手術プロクター(消化器・一般外科)直腸・結腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本ロボット外科学会Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医

- 宇都宮 健(部長)

2010年愛媛大学医学部卒

専門分野:消化器外科全般

資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本東洋医学会漢方専門医、厚生労働省臨床研修指導医

- 永岡 智之(部長)
2011年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医・指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝臓学会肝臓専門医、日本腹部救急医学会腹部救急認定医、日本大腸肛門病学会大腸肛門病専門医、日本ロボット外科学会 Robo-Doc Pilot(国内B級)、厚生労働省臨床研修指導医
- 神崎 雅之(医長)
2012年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本内視鏡外科学会技術認定(消化器・一般外科)大腸、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医
- 沖川 昌平(医長)
2013年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、ICD制度協議会インфекションコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医
- 高田 厚史(医長)
2013年徳島大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医、日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医・消化器外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省臨床研修指導医
- 溜尾 美咲(医長)
2018年島根大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医、厚生労働省臨床研修指導医
- 石村 菜穂(副医長)
2019年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医
- 岩川 陽介(副医長)
2019年徳島大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 資格:日本外科学会外科専門医
- 中城 裕二(専攻医)
2021年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 鳥谷 僚(専攻医)
2022年新潟大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般
- 坪井 葵(専攻医)
2022年愛媛大学医学部卒
専門分野:消化器外科全般

2. 実績

主に県内における地域がん診療連携拠点病院としての役割と、県民医療の最後の砦となる高度救命救急センターとしての役割を担っています。対象患者の各種併存疾患(脳・血管疾患、循環器疾患、糖尿病等)保有率や高齢化率が高く、高リスク(患者因子、高緊急比率)状況下での診療は年々厳しいものとなっています。センター化に伴い、3 グループ(1.上部消化管、2.下部消化管、3.肝胆

膵)でこれらに対応し、専門性、標準化を重視しつつ、低侵襲、緻細な鏡視下手術等を施行しています。鏡視下手術は各領域でロボット支援手術での実施がさらに増加しています。直近3年間の総手術件数は、2023 年 1,490 例、2024 年 1,400 例、2025 年 1,402 例です。

(1) 上部消化管(食道、胃、十二指腸)グループ

食道疾患(癌、食道裂孔ヘルニアなど)、胃疾患(胃癌、胃悪性間葉系腫瘍など)を対象としています。安全性の確保、進行食道癌・進行胃癌に対する化学療法、ロボット支援手術、緩和ケア・地域連携の促進は順調に進んでいます。標準治療のひとつとなった低侵襲(腹腔鏡〔補助〕下)手術については食道癌も含め積極的に施行しています。また胃癌は大多数がロボット支援手術で実施されています。胃悪性腫瘍全体としての手術症例数は過去 3 年で 101 例、116 例、101 例となっています。胃癌は疫学的要因による減少が云われていますが著減することなく推移しています。胃悪性腫瘍の鏡視下手術の割合は、2023 年 91 例(90.1%)、2024 年 96 例(82.8%)、2025 年 91 例(90.1%)となっており、ロボット支援手術は 61 例 71 例、80 例と増加して実施しています。

(2) 下部消化管(小腸、大腸、肛門)グループ

主に大腸癌(結腸癌・直腸癌)、腸閉塞、炎症性腸疾患、肛門疾患(痔核等)を対象とし、近年積極的に低侵襲(鏡視下)手術に取り組んでいます。大腸悪性腫瘍手術(鏡視下手術例・頻度)は 2023 年 244 例(227 例:93.0%)、2024 年 269 例(248 例:92.1%)、2025 年 260 例(238 例:91.5%)と手術症例数を維持し、鏡視下率もほぼ上限に達しています。ロボット支援手術も 121 例、113 例、107 例で、2025 年は大腸癌手術の 45%がロボット支援手術となっています。肛門括約筋機能温存術の適応拡大、術後合併症のさらなる減少にも取り組んでいます。

(3) 肝胆膵(肝臓、胆道、膵臓、脾臓)グループ

肝癌(原発性、転移性)、胆道癌、膵癌、胆石症、脾疾患等を対象としています。毎週内科・放射線科・外科・病理診断科の合同症例検討会を開き、手術適応の検討や、術後病理対比等の分析をしています。肝胆膵領域の悪性腫瘍は、切除しなければ予後は 1 年以内であることも多く、根治性と手術侵襲のバランスが重要です。2025 年の手術症例数(2024 年)は、肝切除 95 例(86 例)、膵切除 76 例(73 例)で、膵頭十二指腸切除 53 例(48 例)、膵尾側切除 21 例(23 例)と例年通りの手術症例数を維持しています。胆石、胆嚢炎手術の過去 3 年の手術症例数は 2023 年 283 例、2024 年 250 例、2025 年 245 例と全国でも有数の手術件数です。

腹腔鏡手術やロボット支援手術等の低侵襲手術は従来からの胆嚢、脾臓以外でも積極的に導入し、肝切除術では保険適用症例はほぼ全例腹腔鏡下に切除可能となりました。また全国でも導入施設が少ないロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術については、四国内では当院が初めて保険適用の施設基準を満たすことができ、以後順調に手術を施行しています。

(4) 鼠径ヘルニア手術

2025 年の手術症例数は 101 例でした。働き方改革に伴う手術枠制限のため、同疾患については当科での実施は数年前から大幅に減少しています。

■ 手術件数

疾患名	症例数	開腹	腹腔鏡下	ロボット
食道癌	11	0	11	0
胃癌	90	7	3	80
胃間葉系腫瘍	11	3	8	0
胃十二指腸潰瘍	21	18	3	0
十二指腸癌	13	3	0	10
小腸閉塞・穿孔	47	37	10	0
原発性肝癌	55	18	37	0
転移性肝癌	19	6	13	0
肝門部胆管癌	1	1	0	0

遠位胆管癌	5	2	0	3
胆嚢癌	10	4	6	0
膵癌	45	21	5	19
膵腫瘍(膵癌を除く)	12	2	0	10
胆嚢結石、胆嚢炎、ポリープ等	245	13	232	0
脾疾患	2	1	1	0
結腸癌	152	19	116	17
直腸癌	108	3	15	90
大腸虚血・穿孔	40	35	5	0
人工肛門造設・閉鎖	35	23	12	0
虫垂炎	92	7	85	0
ヘルニア疾患	101	87	14	0
中心静脈ポート設置	126	126	0	0
その他の疾患	161	101	60	0
合計(NCD 数:1,402 例)	1,402	537	636	229

■ 疾患別入院患者数

疾患名	患者数
食道癌	55
胃癌	131
胃 GIST	10
肝細胞癌	52
肝内胆管癌	8
転移性肝癌	22
胆嚢癌	13
胆管癌	12
十二指腸腫瘍(腺腫、NET 等)	14
膵癌	76
膵腫瘍(IPMN、NET 等)	14
結腸癌	196
直腸癌	166
小腸・結腸・直腸腫瘍	15
悪性リンパ腫	2
胆石・胆嚢炎	228
胆嚢ポリープ・膵筋症	19
膵炎・胆管炎	32
上部消化管穿孔	22
下部消化管穿孔	56
腸管虚血症	1
腸閉塞症	73
結腸憩室症	2
虫垂炎	93
人工肛門	19
肛門疾患(直腸脱)	13
鼠径ヘルニア	67
その他のヘルニア	44
外傷	10
食道・胃(その他)	16
肝・胆・膵(その他)	32
小腸・結腸・直腸(その他)	33

炎症性腸疾患	6
その他	32
分類不能	34
合計	1,618

3. 2026 年度目標

(1) 上部消化管(食道、胃、十二指腸)グループ

① 安全の確保

低侵襲な手術を行うことに努め、周術期管理を徹底して行い、合併症の減少に努めます。これからの愛媛の外科手術を支える若い外科医の技術向上も図ります。地域における胃癌手術治療のセンター的役割を担う覚悟で診療を行っており、引き続きの手術症例数を維持したく考えています。

② 鏡視下手術

食道癌、胃癌、消化管間葉系腫瘍、食道裂孔ヘルニア症例に対して行っています。手技の徹底した定型化による手術時間の短縮・安全性の確保を図っており、完全腹腔鏡下で実施しています。胃悪性腫瘍の鏡視下手術の割合が一段と上昇し、2026 年度もほとんどの症例をロボット支援手術にて実施予定です。

③ 癌緩和ケア・地域連携

緩和ケアは癌診療に不可欠な分野です。地域の医療機関・施設との連携を緊密にし、癌終末期患者の在宅治療を拡充したいと考えています。また、在宅治療開始後も末期癌患者の心の支えになるようサポート体制を充実したいと考えています。

(2) 下部消化管(小腸、大腸、肛門)グループ

① 腹腔鏡下手術、ロボット手術等低侵襲手術症例の増加

2025 年の大腸悪性腫瘍手術の鏡視下手術施行率は 91.5%とほぼ上限に達しており、引き続き維持していきたいと考えています。

ロボット支援手術は 2022 年 4 月の結腸癌への保険適用を受け、結腸癌に対してもロボット支援手術を導入し、順調に施行できており、症例数も増加し、鏡視下手術の 45%に達しております。

② 肛門括約筋機能温存術を含めた機能温存手術症例の増加

原疾患が良性疾患の場合、機能温存術は必須です。一方、原疾患が癌の場合、肛門機能の温存と根治性の両立が難しい症例もあります。根治性を損なわない範囲で、より低位の直腸癌に対しても永久的人工肛門が回避できるように努めています。機能温存によって得られる患者さんの利益を考え放射線・化学療法を併用した機能温存術式を積極的に導入しております。人工肛門を造設した場合には WOC 看護師と共にストーマ外来で管理・指導をしています。

③ 術後合併症のさらなる減少

消化管手術における合併症の中で、縫合不全は生命に関わる可能性もあり、最も外科医を悩ませています。治療には人工肛門造設を余儀なくされる症例もあり、患者さんの QOL(生活の質)は著しく損なわれます。縫合不全を含む合併症のさらなる減少に努めるため、手術の質を維持、改善していきたいと考えています。

(3) 肝胆膵(肝臓、胆道、膵臓、脾臓)グループ

① 手術症例数の確保

消化器内科や放射線科との連携による集学的治療を実施しています。肝細胞癌に対しては、小病変であっても高悪性度が疑われる症例には手術治療を第一選択とし、経皮的治療後の再発、遺残症例に対しても積極的に切除を行っています。膵胆道系疾患については、超音波内視鏡や細胞診等による精細な術前診断を基に治療方針を決定しています。放射線科との連携もさらに強化していく方針です。

② 高齢者や併存疾患のある症例の増加と安全性の確保

最近では高齢者や併存疾患を有するハイリスク症例の占める割合が増加しています。肝胆膵領域の悪性腫瘍は手術不能な場合の予後がきわめて不良であり、長期生存には根治的切除が唯一の

手段です。しかし、手術侵襲が過大となりやすい領域であるため、症例ごとに根治度と手術リスクの十分な検討が必要となります。過去の手術症例に対する検討では、膵頭十二指腸切除に関しても術前の適切な症例選択により、高齢者でも若年者と周術期合併症に関してはほとんど差を認めないとの結果が得られています。今後とも手術手技の精度を上げると同時に、個々の症例に応じたきめ細かな対応を目指したいと考えています。2018 年より SYNAPSE VINCENTを病院全体に先駆けて導入し、肝臓の詳細な立体解剖の把握と同時に、緻細な手術シミュレーションが可能となりました。肝切除時の術中出血量の減少や肝切除後の肝不全防止に活かすと同時に、教育面でも活用を進めていきます。

③ 低侵襲手術への取り組み

胆嚢摘出術をはじめとする良性疾患では、可能な限り reduced port surgery を導入し、単孔式をはじめとして細径鉗子の使用等、整容性の向上を図っています。腹腔鏡下肝切除術では、ほとんどの人が術後4日目までには退院されており、鏡視下率とともにも全国トップクラスの成績です。ロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術に引き続き、ロボット支援肝切除術にも適応を広げていく予定です。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

1. 渡部美弥、發知将規、沖川昌平、永岡智之、大島将義、松野裕介、古手川洋志、吉山広嗣. 85 歳以上の超高齢大腸癌患者に対する Minimally Invasive Surgery の成績. 第 102 回大腸癌研究会学術集会. 別府 (2025.1. 30-31)
2. 宇都宮健、木藤克己. 診断および治療に苦慮した慢性偽性腸閉塞の一例. 第 21 回日本消化管学会総会学術集会. 東京 (2025.2.21-23)
3. 烏谷僚、大島将義、沖川昌平、永岡智之、渡部美弥、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣、大谷広美. 梅の種子による腹痛発作を契機に診断された Crohn 病の 1 例. 第 37 回四国内視鏡外科研究会. 新居浜 (2025.3. 1)
4. 高田厚史、花岡潤、石村菜穂、宇都宮健、徳田和憲、渡邊常太、大谷広美. 若手外科医による Davinci 手術用シミュレーターSimNow を用いたトレーニングで得られるアハ体験. 第 37 回四国内視鏡外科研究会. 新居浜 (2025.3.1)
5. 渡部美弥、中城裕二、永岡智之、大島将義、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣. 結腸膀胱瘻に対する腹腔鏡下手術の安全性と有用性. 第 37 回四国内視鏡外科研究会. 新居浜 (2025.3.1)
6. 花岡潤、石村菜穂、宇都宮健、徳田和憲、渡邊常太、大谷広美. ロボット支援下膵頭十二指腸切除術における right anterior approach のコツと定型化. 第 17 回日本ロボット外科学会学術集会. 宇都宮 (2025.3.7-8)
7. 神崎雅之、溜尾美咲、中城裕二、石村菜穂、大野拓也、佐藤公一、八木草彦. 当院における術中腹腔内洗浄細胞診陽性(CY1)胃癌症例の検討. 第 97 回日本胃癌学会総会. 名古屋 (2025.3.12-14)
8. 溜尾美咲、神崎雅之、中城裕二、佐藤公一、八木草彦. 胃神経内分泌癌に対して外科的切除を行った 4 例の報告. 第 97 回日本胃癌学会総会. 名古屋 (2025.3.12-14)
9. 永岡智之、中城裕二、高田厚史. Ramucirumab 使用中に発生し治療に難渋した穿孔性虫垂炎の 1 例. 第 61 回日本腹部救急医学学会総会. 名古屋 (2025.3.20)
10. 永岡智之、渡邊常太、宇都宮健、徳田和憲、花岡潤、八木草彦、大谷広美. 大腸癌肝転移切除後の早期再発リスク因子の検討. 第 125 回外科学会定期学術集会. 宮城 (2025.4.10-12)
11. 宇都宮健、渡邊常太、石村菜穂、徳田和憲、花岡潤、八木草彦、大谷広美. 超高齢者の原発性肝細胞癌に対する手術治療～当院での治療成績の検討～. 第 125 回外科学会定期学術集会. 宮城 (2025.4.10-12)
12. 石村菜穂、花岡潤、徳田和憲、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美、大濱日出子、多田藤政、平岡淳. PET-CT における FDG 高集積は肝細胞癌早期再発における新たなバイオマーカーになり得る. 第 61 回日本肝臓学会総会. 東京 (2025.6.5-6)
13. 中城裕二、大島将義、石村菜穂、沖川昌平、永岡智之、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣. ガンサイト縫合閉鎖法にてストーマ閉鎖を行った 2 例. 第 38 回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会. 香川 (2025.6. 7)
14. 溜尾美咲、大島将義、坪井葵、神崎雅之、佐藤公一、八木草彦、大谷広美. 腸管露出を伴う離開創に対して保護ドレッシング材を併用した陰圧閉鎖療

法が有用であった 1 例. 第 38 回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会. 香川 (2025.6.7)

15. 宇都宮健、渡邊常太、石村菜穂、徳田和憲、花岡潤、大谷広美. Early recurrence factors in surgical cases of Borderline1 hepatocellular carcinoma. 第 37 回日本肝胆膵外科学会定期学術集会. 軽井沢 (2025.6.13-14)
16. 渡邊常太、石村菜穂、高田厚史、宇都宮健、花岡潤、大谷広美. Clinical features and outcomes of acinar cell carcinoma of the pancreas in our institution. 第 37 回日本肝胆膵外科学会定期学術集会. 軽井沢 (2025.6.13-14)
17. 花岡潤、烏谷僚、石村菜穂、宇都宮健、徳田和憲、渡邊常太、大谷広美. 多職種で極めるロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸. 第 123 回日本消化器病学会四国支部例会. 高知 (2025.6.21-22)
18. 神崎雅之、溜尾美咲、佐藤公一、八木草彦. FDG-PET で集積亢進を呈した多発食道平滑筋腫の 1 切除例. 第 79 回日本食道学会学術集会. 京都 (2025.6.26-27)
19. 宇都宮健、渡邊常太、石村菜穂、高田厚史、徳田和憲、花岡潤、八木草彦、杉田敦郎、大谷広美. A case of a cystic form of pancreatic neuroendocrine tumor that grew during follow-up. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
20. 永岡智之、中城裕二、大島将義、渡部美弥、松野裕介、古手川洋志、吉山広嗣、八木草彦、發知将規、大谷広美. 大腸癌手術における腹腔洗浄細胞診陽性例の検討. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
21. 松野裕介、中城裕二、永岡智之、渡部美弥、大島将義、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣. 当院における直腸神経内分泌腫瘍に対するロボット支援腹腔鏡下手術の成績. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
22. 岩川陽介、花岡潤、石村菜穂、高田厚史、徳田和憲、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. A case of pancreatic lymphoepithelial cyst resected by robot-assisted distal pancreatectomy. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
23. 花岡潤、石村菜穂、高田厚史、宇都宮健、徳田和憲、渡邊常太、大谷広美. ロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術脾空腸吻合における我々の工夫. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
24. 溜尾美咲、神崎雅之、八木草彦. Perioperative outcomes of elderly patients over 80 years with gastric cancer. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
25. 大島将義、中城裕二、永岡智之、渡部美弥、松野裕介、古手川洋志、吉山広嗣、八木草彦、發知将規、大谷広美. Knack and Outcomes of Robot-Assisted Surgery for splenic flexural colon cancer. 第 80 回日本消化器外科学会総会. 神戸 (2025.7.16-18)
26. 宇都宮健、渡邊常太、石村菜穂、徳田和憲、花岡潤、黒田太良、宮田英樹、大谷広美. 切除不能膵癌に対する当院での conversion 手術の経験. 第 56 回日本肝臓学会大会. 東京 (2025.7.26)
27. 石村菜穂、中城裕二、沖川昌平、永岡智之、大島将義、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣、八木草彦、大谷広美. 局所進行直腸癌(LARC)に対して Total neoadjuvant therapy(TNT)後にロボット支援下低位前方切除術(LAR)を施行した 1 例. 第 77 回愛媛外科会総会. 松山 (2025.8.2)
28. 烏谷僚、宇都宮健、岩川陽介、高田厚史、花岡潤、渡邊常太、八木草彦、大谷広美. 術前に仮性動脈瘤を認めた破骨型多核巨細胞を伴う退形成膵癌の 1 例. 第 77 回愛媛外科会総会. 松山 (2025.8.2)
29. 坪井葵、溜尾美咲、神崎雅之、佐藤公一、八木草彦、大谷広美. 胸腔内吻合後の縫合不全に対し内視鏡的処置が有用であった 1 例. 第 77 回愛媛外科会総会. 松山 (2025.8.2)
30. 沖川昌平、發知将規、中城裕二、石村菜穂、永岡智之、大島将義、松野裕介、古手川洋志、吉山広嗣. 肛門機能に対する評価と手術手技も含めた取り組みの現状. 第 26 回愛媛肛門疾患懇話会. 松山 (2025.8.30)
31. 花岡潤、岩川陽介、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. ロボット支援腹腔鏡下腓体尾部切除術における術者・助手それぞれの工夫. 第 13 回四国肝胆膵外科フォーラム. 高松 (2025.10.4)
32. 大島将義、中城裕二、沖川昌平、永岡智之、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣. 横行結腸癌・脾彎曲部癌に対するロボット支援下手術手技の工夫と成績. 第 79 回手術手技研究会. 大阪 (2025.11.7-8)
33. 渡邊常太、烏谷僚、岩川陽介、高田厚史、宇都宮健、花岡潤、大谷広美. 脾切除術後の腹腔内出血に対する検討. 第 38 回日本外科感染症学会総会学術集会. 山形 (2025.11.7-8)
34. 岩川陽介、花岡潤、高田厚史、脇悠平、徳田和憲、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美、堀内淳. 県立病院間で行う若手・中堅医師キャリア形成のための積極的な人的交流. 第 61 回愛媛県立病院学会. 松山 (2025.11.15)
35. 岩川陽介、花岡潤、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. ロボット支援膵頭十二指腸切除術におけるリークゼロを目指すための胆管空腸吻合の工夫. 第 87 回日本臨床外科学会学術集会. 東京 (2025.11.20-22)
36. 宇都宮健、八木草彦、大谷広美. 腎虚を伴う鼠径部痛に対し漢方治療が奏功した症例. 第 87 回日本臨床外科学会学術集会. 東京 (2025.11.20-22)

37. 鳥谷僚、花岡潤、岩川陽介、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. MIS-DP における Clip on staple 法による臍液漏ゼロを目指した取り組み. 第 87 回日本臨床外科学会学術集会. 東京 (2025.11.20-22)
 38. 石村菜穂、花岡潤、徳田和憲、宇都宮健、平岡淳、多田藤政、大濱日出子. 急性胆嚢炎を契機に発症した巨大肝被膜下膿瘍の 1 例. 第 46 回日本肝臓学会西部会. 下関 (2025.12.4-5)
 39. 花岡潤、鳥谷僚、岩川陽介、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. 高齢者肝疾患における肝切除の特徴とその短期及び長期成績. 第 46 回日本肝臓学会西部会. 下関 (2025.12.4-5)
 40. 岩川陽介、花岡潤、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. 腹腔鏡手術で治療した多隔壁胆嚢の 1 例. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 41. 鳥谷僚、花岡潤、岩川陽介、高田厚史、徳田和憲、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. 門脈輪状臍を伴った臍尾部癌に対し腹腔鏡下臍尾部切除術を施行した 1 例. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 42. 溜尾美咲、神崎雅之、坪井葵、鳥谷僚、中城裕二、佐藤公一、八木草彦、大谷広美. 腹腔鏡下に修復しえた成人横隔膜ヘルニアの 2 例. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 43. 永岡智之、發知将規、中城裕二、石村菜穂、沖川昌平、大島将義、松野裕介、古手川洋志、八木草彦、吉山広嗣、大谷広美. 閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置例におけるロボット支援手術の安全性に関する検討. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 44. 神崎雅之、坪井葵、中城裕二、鳥谷僚、溜尾美咲、佐藤公一、八木草彦、大谷広美. パート別の複数執刀医制ロボット胃切除の成績. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 45. 花岡潤、鳥谷僚、岩川陽介、高田厚史、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. ロボット支援臍頭十二指腸切除術再建における我々の工夫. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
 46. 沖川昌平、大島将義、中城裕二、石村菜穂、永岡智之、松野裕介、發知将規、古手川洋志、吉山広嗣. 脾彎曲部授動を伴うロボット支援腹腔鏡下結腸切除後に生じた内ヘルニアの 2 例. 第 38 回日本内視鏡外科学会総会. 横浜 (2025.12.11-13)
- 黒田太良、宮田英樹、大谷広美. 8 年間経過観察後に切除した嚢胞形態の臍神経内分泌腫瘍の 1 例. 臍臓 40 巻(4 号). 93-101 (2025.10.31)
9. Sakamoto A, Sakamoto K, Hikida T, Ito C, Iwata M, Shine M, Uraoka M, Nagaoka T, Honjo M, Tamura K, Funamizu N, Ogawa K, Takada Y. Clinical significance of postoperative cardiothoracic ratio for postoperative pleural effusion following hepatectomy. BMC Surg 25(1). 523 (2025.11.4)
 10. Fujimasa Tada, Atsushi Hiraoka, Hideko Ohama, Mai Saito, Yuka Kimura, Ayaka Nakamura, Toru Usui, Kanako Kato, Kei Onishi, Shogo Kitahata, Kozue Kanemitsu-Okada, Tomoe Kawamura, Taira Kuroda, Naho Ishimura, Jun Hanaoka, Jota Watanabe, Hiromi Ohtani, Teruki Miyake, Osamu Yoshida, Masashi Hirooka, Hideki Miyata, Eiji Tsubouchi, Masanori Abe, Tomoyuki Ninomiya, Yoichi Hiasa. Prognostic Stratification of Initial Treatments for Hepatocellular Carcinoma Using a Modified Borderline Resectable Classification. Cancer medicine 14(24). e71470 (2025.12)

(2) 論文・著書

1. 石村菜穂、鳥谷僚、中城裕二、高田厚史、徳田和憲、花岡潤、宇都宮健、渡邊常太、大谷広美. 術前診断が困難であり、腹腔鏡下に切除した肝偽リンパ腫の 1 例. 愛媛県立病院学会々誌 59 巻. 23-26 (2025.3.31)
2. Nishi Y, Sakamoto K, Uraoka M, Nagaoka T, Honjo M, Tamura K, Funamizu N, Ogawa K, Takada Y, Umeda Y. Liver resection in patients with a history of local ablation for hepatocellular carcinoma has the risk of poor survival and serosal invasion. Ann Gastroenterol Surg 9(2). 347-358 (2025.3)
3. Sakamoto K, Iwamoto Y, Ogawa K, Şal O, Tamura K, Hikida T, Ito C, Iwata M, Sakamoto A, Shine M, Nishi Y, Uraoka M, Nagaoka T, Honjo M, Funamizu N, Takada Y. Impact of reconstructed portal vein morphology on postoperative nutritional status in pancreatoduodenectomy: a computational fluid dynamics study. Surg Today 55(3). 445-451 (2025.5)
4. 多田藤政、平岡淳、大濱日出子、二宮朋之、花岡潤、渡邊常太、大谷広美、廣岡昌史、日浅陽一. 【未来を見据えた超音波～意識・知識・技術の融合～】腹腔鏡下肝亜区域切除で診断に至った肝血管筋脂肪腫の一例. Rad Fan 23 巻(7 号). 80-82 (2025.6.30)
5. Miyo M, Shiomi A, Lee SW, Fukunaga Y, Hiro J, Kinugasa Y, Nomura A, Ohno R, Kawai K, Yasui M, Yamakawa Y, Takahashi H, Miura T, Murata K, Kotake M, Katsuno H, Kobayashi A, Yokota M, Matsuhashi N, Tei M, Hasegawa S, Ozawa M, Takano Y, Kanemitsu Y, Hazama H, Nonaka T, Ishizaki T, Uemura M, Obatake M, Kagawa Y, Ishihara S, Okuya K, Sakai Y, Watanabe M, Takemasa I. Short-term outcomes of robot-assisted ultralow anterior resection and robot-assisted rectectomy with transanal anastomosis for rectal cancer in Japan: A multicenter retrospective cohort study (ROSEMARY study). Surgery doi: 10.1016/j.surg.2025. 109414 (2025.8)
6. Utsunomiya T, Watanabe J, Karasudani R, Ishimura N, Takada A, Kanzaki M, Yagi S, Yoshiyama H, Sumida S, Ohtani H. Enucleation of a Large Pseudo-Mesenteric Cyst with Hemorrhage and Infection: A Case Report. JMA J 8 巻(4 号). 1445-1448 (2025.10.15)
7. Sakurai T, Yamaguchi T, Numata M, Sakamoto T, Hida K, Akagi T, Shiomi A, Inada R, Shiozawa M, Kazama K, Hotchi M, Yamamoto D, Hasegawa S, Miguchi M, Ohnuma S, Uehara K, Munakata K, Horie H, Miyake T, Takahashi H, Furutani A, Matoba S, Sakamoto K, Kagawa H, Kinugasa Y, Yamaguchi S, Watanabe M, Naitoh T; LANDMARC Collaborative Study Group of the Japan Society of Laparoscopic Colorectal Surgery. Risk factors for male sexual dysfunction after minimally invasive surgery for rectal cancer: a multicenter prospective subanalysis of the LANDMARC study. Surg Endosc 40(2). 945-954 (2025.10.30)
8. 宇都宮健、渡邊常太、石村菜穂、高田厚史、徳田和憲、花岡潤、八木草彦、